

大気中の微粒子（エアロゾル）が 気候に及ぼす影響

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告書で示されているように、温室効果ガスの増加による地球温暖化が進む一方、人為起源の大気中の微粒子（エアロゾル）及び、それによる雲の変化は冷却効果をもたらしてきたと考えられています。しかし、その冷却効果の見積り幅は大きく、まだまだエアロゾルの挙動とその影響の理解は不十分です。それは同時に、21世紀の地球温暖化の予測精度を向上させるためにも重要なテーマとなっています。このように将来の気候変化の鍵を握るエアロゾルについて、身近に感じていただき、また興味を持っていただくための講座を開講します。

日時：2012年8月31日(金) 13:00～16:30 (開場 12:30)
場所：名古屋大学 ES 総合館 ES ホール

プログラム

1. 開会の辞 13:00～13:10
神田 豊(名古屋地方気象台長、気象学会中部支部長)
2. 「大気微粒子（エアロゾル粒子）の計測から探るその気候とのつながり」 13:10～14:00
持田陸宏(名古屋大学大学院環境学研究科)
3. 「地球気候系における大気微粒子の役割」 14:00～14:50
中島映至(東京大学大気海洋研究所)
- (休憩) 14:50～15:00
4. 「大気微粒子による気候変動と大気汚染の予測」 15:00～15:50
竹村俊彦(九州大学応用力学研究所)
5. 質問、総合討論 15:50～16:30

申し込み方法：直接会場にお越し下さい
定員：200名(先着順)
受講料：500円(テキスト代込み)
主催：日本気象学会中部支部・
後援：名古屋地方気象台・日本気象協会
名古屋大学地球水循環研究センター
問い合わせ先：名古屋市千種区日和町2-18
名古屋地方気象台内
日本気象学会中部支部
公開気象講座事務局
電話：052-751-5124

URL:<http://www.msj-chubu.jp/koukaikouza.html>



地下鉄名城線 名古屋大学駅下車。2番出口あるいは3番出口を出て、「名大北」信号から大学構内へ。